

フェマラーの服用をはじめ あなたのために

～進行・再発後のホルモン療法の解説と服薬の注意点～

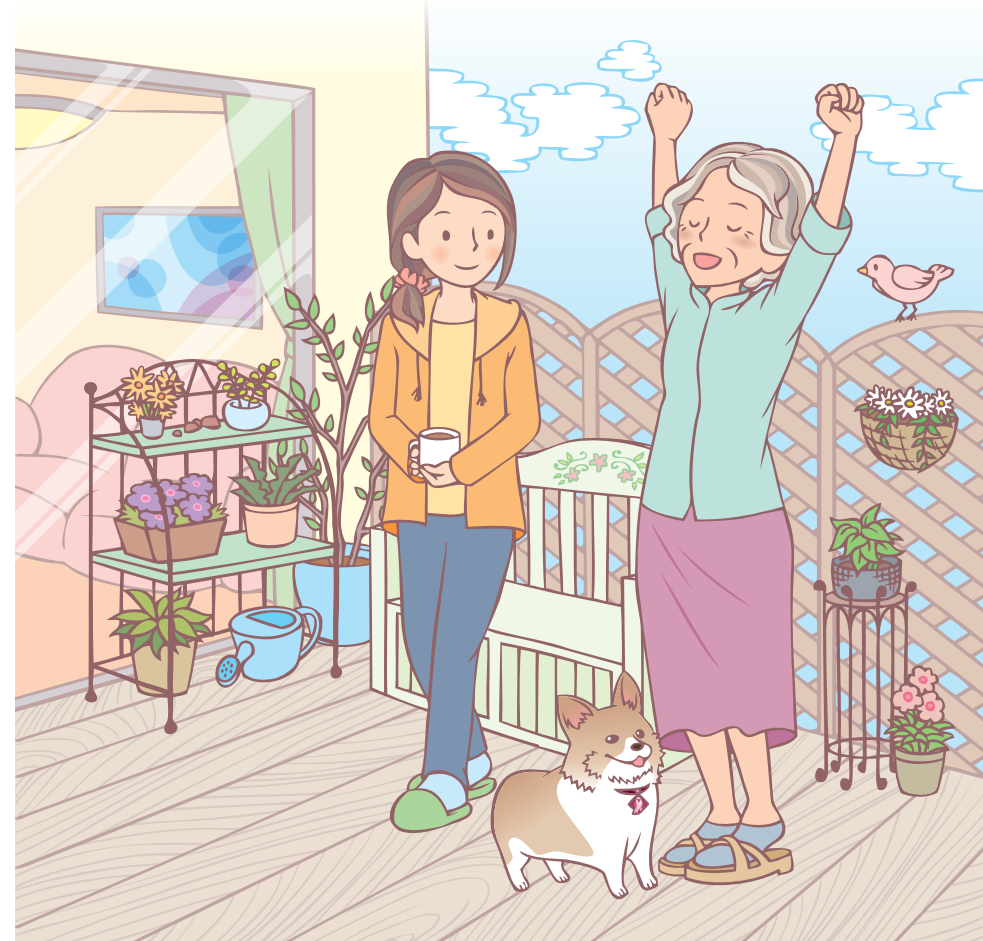
監修：野口眞三郎先生

兵庫県立西宮病院 院長

病医院名

ノバルティス ファーマ株式会社

FEM00295GK0002
2019年9月作成



はじめに

この冊子は、あなたがフェマーラ(一般名:レトロゾール)による治療に安心して取り組めるよう、治療法やフェマーラというお薬について解説した手引書です。治療やお薬について正しく理解していただくための資料として、ご利用いただければ幸いです。

お薬や副作用などについてきちんと理解し、治療に向き合っていくことはとても大切なことです。この冊子を読んでもわからないことや、不安に思うことがありましたら、遠慮なく担当医師、看護師または薬剤師にご相談ください。

目次

ホルモン療法って何ですか?	4
フェマーラはどのようなお薬ですか?	8
フェマーラによる進行乳がんや手術後の再発乳がんの治療について教えてください	12
フェマーラの副作用を教えてください	14
フェマーラの服薬方法・注意点は?	18
用語集	21





ホルモン療法って何ですか？

女性ホルモン(エストロゲン)の働きを抑え、がん細胞が増えるのを防ぐ治療法です。

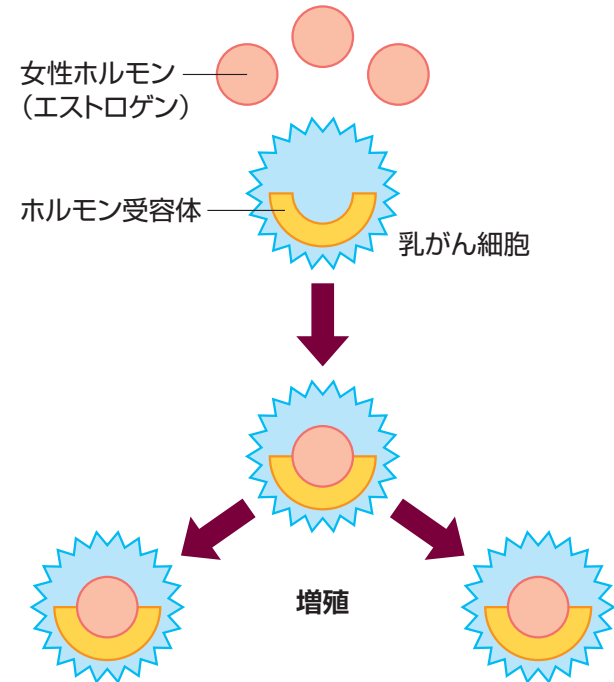
女性ホルモンの影響を受けやすい「ホルモン感受性乳がん」

乳がんのなかには、女性ホルモン(エストロゲン)の働きによってがん細胞が増える「ホルモン感受性乳がん」があります。ホルモン感受性乳がんは、乳がん全体の7割程度を占めています*。

*Yamashita H, et al. Ann Oncol 2011; 22: 1318-1325



乳がんと女性ホルモン(エストロゲン)



(イメージ図)

女性ホルモン(エストロゲン)が、乳がん細胞の女性ホルモン受容体に作用すると、乳がん細胞が増殖しはじめ、乳がんが大きくなります。

ホルモン療法は女性ホルモン (エストロゲン)の働きを抑える治療法

ホルモン療法とは、こうした「ホルモン感受性乳がん」が増殖しないように、薬によって体内のエストロゲンを減らしたり、働きを抑える治療法です。特に閉経後の患者さんでは効果の高いことが知られています。

また、ホルモン療法には抗がん剤治療に比べて副作用が少ないという特徴があり、乳がん治療における重要な治療法のひとつになっています。

ホルモン療法では、がん細胞の数が比較的ゆっくりと減少していきます。そのため、治療はあせらず、じっくり行うことが大切です。



Question ホルモン療法はどんな人に効果が期待できますか？

>>> ホルモン療法の効果は、乳がん細胞に女性ホルモンを感知する「ホルモン受容体」がどのくらいあるかを調べるとわかります。

ホルモン受容体にはエストロゲン受容体(ER)とプロゲステロン受容体(PgR)があり、これらのうち両方またはいずれかが確認された場合に、ホルモン療法の効果が期待できます。





フェマールは どのようなお薬ですか？

女性ホルモン(エストロゲン)が作られるために必要なアロマターゼの働きを抑える「アロマターゼ阻害薬」というお薬です。

閉経後もアロマターゼの働きにより エストロゲンは作られる

女性ホルモン(エストロゲン)は、閉経前は主に卵巣で作られています。閉経後は卵巣機能が低下するので、卵巣ではエストロゲンが作られなくなりますが、体内からエストロゲンがなくなるわけではありません。

閉経後、エストロゲンは、副腎から分泌される男性ホルモン(アンドロゲン)から、脂肪などに存在するアロマターゼという酵素の働きで作られるようになります。

アロマターゼの働きを抑える フェマール

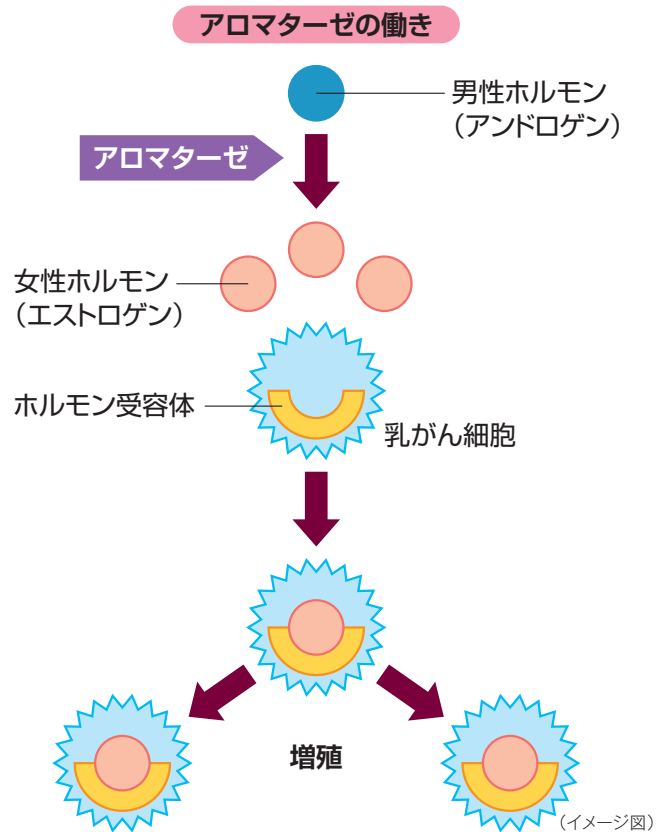
フェマール(一般名:レトロゾール)は、このアロマターゼの働きを抑える「アロマターゼ阻害薬」というタイプのお薬で、体内で男性ホルモン(アンドロゲン)から女性ホルモン(エストロゲン)が作られるのを抑え、乳がん細胞が増殖しないように働きます。

フェマールは、このような特性から、閉経後乳がんのホルモン療法として使われるお薬です。

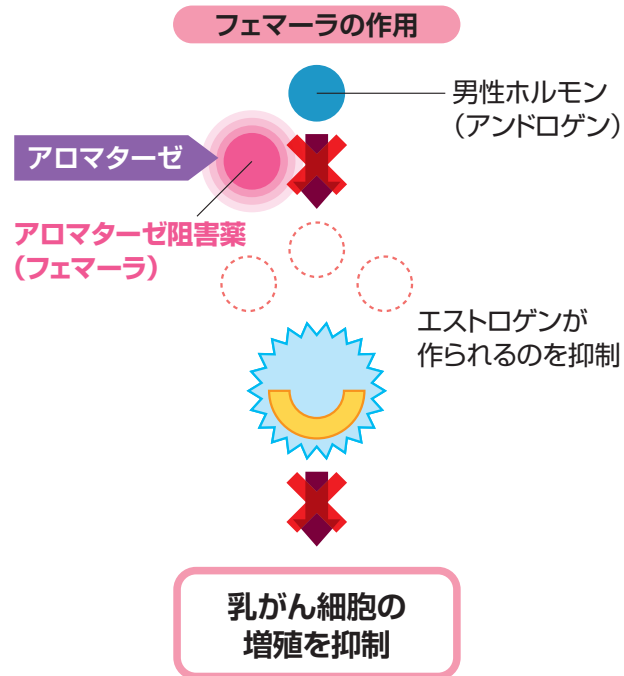
くわしくは、p.10~11の図をご覧ください。



アロマターゼ阻害薬フェマラーの作用



- 男性ホルモン(アンドロゲン)はアロマターゼによって女性ホルモン(エストロゲン)に変換されます。
- エストロゲンがホルモン受容体に作用すると、乳がん細胞が増殖しはじめます。



- フェマラーが、アロマターゼの働きをブロックするため、男性ホルモン(アンドロゲン)は女性ホルモン(エストロゲン)へ変換されません。
- エストロゲンが作られるのが抑えられるため、乳がん細胞は増殖できなくなります。



フェマールによる 進行乳がんや手術後の 再発乳がんの治療について 教えてください

乳がんが進行・再発した場合にフェマールを服用することで症状の改善や進行を遅らせることが期待できます。

進行・再発とその症状

乳がんの病勢が進行することを進行乳がん、手術後に再び乳がんが現われることを再発乳がんといいます。

乳がんが進行・再発し、骨や肺などの乳房から離れた部位に転移（遠隔転移）すると、さまざまな症状（ある特定の部位に痛みを感じたり、息切れや咳が治まらないなど）があらわれ、QOL*の低下をきたす場合があります。

*QOL：Quality of Life。人が日常生活を送るときの充実感や満足感の質または程度をさします。

フェマールは、がんの進行を抑えたり、
症状をやわらげる治療に用いられる

乳がんが進行・再発し、乳房から離れた部位に転移（遠隔転移）している場合、治療の目的は、がんの進行を抑えたり症状をやわらげたりして、QOLを保ちながら長期間普段の生活が送れるようにすることです。

フェマールは、このような目的のために用いられます。





フェマールの副作用を教えてください

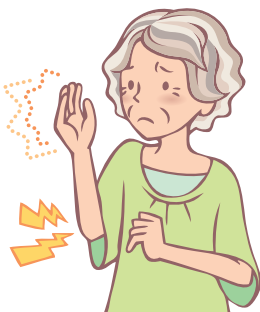
主な副作用は「関節痛」「ほてり」「頭痛」「吐き気」などです。

主な副作用

副作用のあらわれかたは個人差がありますが、今までに知られている主な副作用の症状として以下のようなものがあります。

● 関節痛

肩、ひじ、ひざなど、身体の節々が痛んだりこわばったりすることがあります。痛み止めのお薬による治療などを行いますので、無理せず担当医師に相談してください。



● ほてり

のぼせるようにして顔やからだがかよくなったり、汗をかきやすくなったりすることがあります。



● 頭痛

頭が痛くなることがあります。痛みの種類には個人差がありますので、症状が気になるときには担当医師に相談してください。



● 吐き気

気持ちが悪くなったり、吐き気が起きることがあります。吐き気止めのお薬を服用することで症状を和らげることが可能ですので、無理せず担当医師に相談してください。



● その他

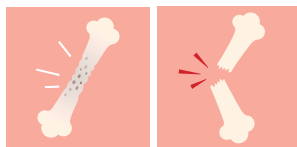
発疹、かゆみ、めまいなどが起きることがあります。



その他注意していただきたい副作用

●骨粗鬆症、骨折

骨からカルシウムが失われ、症状が進むと腰や背中に痛みが生じ、骨折の危険性も高くなります。フェマールの服用中は、定期的に検査を受けて骨の状態を確認します。



骨粗鬆症

骨折

また、まれに以下のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。このような症状があらわれたときには、すぐに医師の診断を受けてください。

- 発汗、息切れ、胸の圧迫感・痛み、など [肺塞栓症、狭心症、心筋梗塞]
- からだがだるい、全身のむくみ、息切れ、など [心不全]
- 頭痛、吐き気、しゃべりにくい、手足や顔の麻痺、など [脳梗塞]
- 下肢などの局所の痛み、むくみ、など [血栓性静脈炎、動脈血栓症]
- からだがだるい、食欲不振、皮膚や白目が黄色い、など [肝機能障害、黄疸]
- 発熱、関節の痛み、赤い発疹や水ぶくれ、など [中毒性表皮壊死症、多形紅斑]



Question 副作用が辛いときにはどうしたらよいですか？

>>> 副作用のあらわれかたには個人差がありますから、「辛い」と思ったら担当医師や看護師、薬剤師に相談してください。副作用を減らすためのお薬を処方したり、一度治療をお休みして副作用が回復するのを待つこともあります。

副作用を無理にがまんしてしまうのではなく、辛い症状については担当医師や看護師、薬剤師と一緒に対処していきましょう。





フェマラーの服薬方法・注意点は？

通常、1日1回毎日服用します。服用に際しては担当医師の指示を守って適切に服用してください。

服用方法・服用量

フェマラーは、通常1日1回1錠を毎日服用します。服用する際には、お薬を包装から取り出し、コップ1杯程度の水またはぬるま湯と一緒に服用してください。

また、フェマラーは、朝・昼・夜、また食前・食後にかかわらず、いつ服用しても効果は変わりません。飲み忘れを防ぐために、1日1回時間を決めて服用しましょう。

服用期間

服用期間は、人それぞれに異なりますので、担当医師の指示に従ってください。自分で勝手に服用をやめてはいけません。



Question お薬を飲み忘れてしまったときにはどうしたらよいですか？

≫≫もし、服用を忘れた場合、同じ日のうちに気がついたときはできるだけ早く服用してください。翌日になって気がついたときは忘れた分を服用せずに、1回分のみ服用してください。忘れてしまったからといって、一度に2回分を服用してはいけません。

また、誤って多く服用してしまった場合には、すぐに担当医師や看護師、薬剤師に相談してください。



Question ほかのお薬と一緒に飲んでも大丈夫ですか？

≫≫複数のお薬と一緒に服用すると、お薬によっては必要以上に効き目が強くなったり、反対に弱まったりすることがあります。

そのため、フェマラー以外に服用しているお薬（市販のお薬も含みます）がある人は、必ずそのお薬について担当医師や看護師、薬剤師に伝えてください。



その他服用時の注意点

- 高齢のかたは特に担当医師の指示を守って服用してください。
- 肝臓や腎臓に病気があるかたは、事前に担当医師に相談してください。
- ほかの医療機関を受診する場合には、フェマラを服用していることを医師や薬剤師に伝えてください。
- 疲れやめまい、眠気があらわれることがありますので、自動車の運転や危険を伴う機械を操作するときには注意してください。
- フェマラは直射日光を避け、子どもの手の届かないところに保管してください。



用語集 (50音順)

アロマターゼ

アンドロゲンをエストロゲンに変換させる酵素。

アンドロゲン

閉経後の女性では主に副腎より分泌されるホルモンで、アロマターゼによってエストロゲンに変換されます。

エストロゲン

女性ホルモンのひとつで、乳房や子宮、骨、皮膚などの発達や機能に深く関わります。

抗がん剤治療

がん細胞を死滅させる作用を有する薬剤（抗がん剤）を用いて行われる治療のこと。

ホルモン感受性

細胞が増殖するためホルモンを必要とする性質。

ホルモン受容体

がん細胞が増殖するときに女性ホルモンを取り込むかぎ穴のようなもの。エストロゲン受容体とプロゲステロン受容体があります。

ホルモン療法

乳がんを増殖させるホルモンの働きを抑えたり、減少させる治療法。

MEMO

Lined writing area for page 22, consisting of 20 horizontal pink lines.

Lined writing area for page 23, consisting of 20 horizontal pink lines.

